

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 10 月 11 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
長野県妙高
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 10 月 1 日 ~ 平成 27 年 10 月 4 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
杉山茂氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の笹ヶ峰実習は、フィールドワークの基礎となるサバイバル能力を身につけることを目的とし、以下の日程で行われた。 2015/10/1 集合、ガイダンス 2015/10/2 周辺散策 2015/5/28 火打山登山 2015/4/29 ロープワーク、解散 初日はヒュッテについた後、周りの野生の果物を採集に行った。今回の実習は男性大学院生の参加者が少なく、比較的高身長であった私は木の上になるヤマブドウの採取で活躍した。みんなで協力して採集した結果、大量のヤマブドウやアケビが採れた。フィールドワークではみんなで協力すること、周りにあるものを有効利用することが大切なのだろう。 二日目の周辺散策では、宿舎のヒュッテの周りの動植物を観察した。植物についてはブナやトチ、ミズナラの実が多く落ちていた。樹種を覚えるためには葉、果実、幹の形状をセットで覚えるのがよいかもしれないと感じた。今回の実習では明確なデータ収集の必要がなかったことや、幸島先生などフィールドに詳しいエキスパートがいたことで、いつもの実習より植物のことを勉強できたと思う。一方動物については野生のニホンザルに出会えた。この実習を通して、ここで見たニホンザルが一番印象に残るイベントだった。草原で出会った笹ヶ峰のニホンザル群は人慣れしておらず、多くの個体が逃げていった一方で、数頭のオスたちは草原に残ってずっと昆虫を食べていた。この草原はサルたちの重要な採食場所になっているのではないかと思った。少なくとも、よく研究がされている屋久島や金華山とは異なる環境のフィールドなので、このニホンザルの社会や生態の研究が進めばよいと思う。 三日目はいよいよ火打山に登山した。フィールドワークで行うように、コンパスで方向の確認および地図での現在位置の確認を行いながら登山した。今回の登山では必要な荷物が少なく、初心者が通れないような険しい道を通ったわけではなかったので比較的余裕をもって登山できた。山の景色は非常に綺麗であり、登山中はいろいろな人と話したり、歩きながらじっくりと考え事ができたりして有意義だった。 最後の日にロープワークをして実習を終えた。この実習は目に見えるデータ収集や発表のないフィールドワークだったので、とても楽しく受講することができた。また、これまで話したことなかった PWS の先輩や、インターンの留学生と交流を持てたこともよかったと思う。今後は、笹ヶ峰のフィールドの野生動物の研究も進んでいけばよいと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



宿泊したヒュッテ



野生の果実を採集する様子



登山の様子



ロープワーク

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラムおよび指導を賜った杉山様、松沢様、幸島様、山本様、滝沢様、萩原様に感謝申し上げます。